

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぶらすA 杵築事業所		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 14日		～ 令和8年 2月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 12人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 14日		～ 令和8年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の職員が在籍している為、その分野の専門的な意見を活動や支援に反映しやすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職に直接、個別や小集団で支援をお願いすることも多い。 ・活動の立案時には、PTやOTだけでなく、保育士や児童指導員等、色んな視点からの意見を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職だけに限らず、全職員が色んな研修や会議に参加することにより、職員の質の向上を図りながら、チームとしての底上げを図っていく。
2	多機能型事業所の為、児童発達支援のこともと関わる機会があり、率先してお世話をしてくれたり、年上としての責任感を持ちやすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動時の児童発達支援のことも達の誘導や順番待ち等のお世話を放課後等デイサービスの子ども達にお願いしている。 ・お出かけ時にも児童発達支援のこともと一緒に手を繋いでもらう事も多い。(お世話をお願いしている。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者だけでなく、放課後等デイサービスの子ども達に読み聞かせを願ひし、自信に繋げる。 ・お当番業務の仕方を教えてもらう。
3	職員同士が普段から気兼ねなく話し合い、風通しの良い職場である。その為、一貫した支援を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の利用児の様子を共有し、次はどういう支援をしているか等、職員同士で話し合うようにしている。 ・週案や月案も一人では決めず、色んな意見を取り入れて決めるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員からの聞き取りだけでなく、アセスメントシートを取り入れながら、さらに職員同士でその子その子に応じた支援の方向性を再確認、再検討しながら、今後の支援に活かしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋数が少なく、クールダウンするスペースや個室が足りない。	<ul style="list-style-type: none"> ・クールダウンしたい時や体調不良時に一時的に使用すると、部屋が一つしか使えない状況になる事もある。(倉庫や事務室を使用する事もある。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋を増やすことは難しい為、ホールを仕切って活動をしたり、公園や戸外活動等も取り入れていく。
2	保護者同士の交流の場が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回は引き渡し訓練の際に、同時に保護者参観を開催しているが、回数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者参観だけでなく、不定期で保護者懇談を開催し、保護者同士の交流の場を増やしていく。
3	地域交流の機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブや児童館との交流がほぼない。(地域の行事やイベントには参加している。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の放課後児童クラブの情報収集をした上で、こちらから打診し、交流の場を設けていきたい。 ・地域の行事やイベントには今後も参加していく。